11/21 Fri

研究校　**松本市立女鳥羽中学校**

共同研究者　**中村麻由子**
（大東文化大学 文学部教育学科 准教授）

みんなが WIN・WIN になる 地域共創のキャリア学習

浅間温泉の有名ホテルにある日本庭園は、外来種の草木をやっと抜き終え金魚を他に移して、ビオトープ化の下準備が進みました。ホテルや地域の方と共にビオトープを維持し、宿泊者や地域の子たちが自然に関心を寄せ、親しみ学ぶ場となっていくような仕組みづくりがこれからの課題です。

地域で始まった「子ども食堂」に集った小さな子どもたちと一緒に遊んだり、スタッフと新メニューを考案して試食したり・・・生徒らは、より深く運営に関わるようになってきました。地域の子ども、子育て中の親、高齢者などをつなぐ場としての子ども食堂の役割を生徒が実感的に理解し、自分の願いやアイデアを実現していく活動をいかに続けていくかが課題です。

豆腐店のおから、里山から出る間伐材などに付加価値を付けて売り出そうという講座も苦労しています。売るに堪える「商品」開発の難しさを実感しています。同じく、書籍製作販売講座でも、発想や表現を形にして「本」にするまでの数々のハードルに困惑しています。それでも自分が手作りした「本」が書店に並び誰かが買ってくれることを夢見て文章を練り、写真を撮り、イラストを描いています。

様々な人と関わり合い何かをつくっていくことの楽しさ、喜びや手ごたえを共感し合うことの尊さ・・・そのような原体験は、生徒のこの先の人生、彼の地での生活で活きる経験知となっていくことでしょう。

そして、学校と地域にとって「文化的な価値」や「経済的価値」がある活動ならば、生徒が卒業しても教員が異動しても、きっと学校や地域の人々によって継承されていくことでしょう。

参会者も生徒も会場校も WIN・WIN になる 1 日

公開当日は、各講座の活動のひとコマや中間発表をご覧いただきます。参観の後は、「車座授業談義」です。ここに集った一人一人が感じたこと、考えたことを思い思いに差し出し合い、受け止め合います。訥々としみじみと語り合う「車座授業談義」もまた、本校公開研究会の「主菜」です。

共同研究者 中村先生から

女鳥羽中学校のキャリア学習は、中学生の＜わたし＞が、松本市という社会に参加するということと、その土台となる学校という社会に参加するということの重層性から成り立っていると言える。一人の子どもが社会に参加するとき、その傍らには、その子どもの自己形成の意味を物語る女鳥羽中の教師たちが存在している。女鳥羽中学校では、＜わたし＞が社会に参加するということが、たんなる「社会」適応ではなく、学校内外の他者と共に、わたしたちの社会にとって大切な何かを分かち合いながら、自己やその関係性を編み直す実践となるようなキャリア学習を試みている。

～日 程～

①	受付	13：10～13：40
②	授業公開	13：40～14：30
③	開会行事	14：40～14：50
④	車座授業談義	15：00～16：30
⑤	閉会行事	16：30～16：40

本文（ブックレット vol.144）.indd　19　2025/09/29　14:31:50